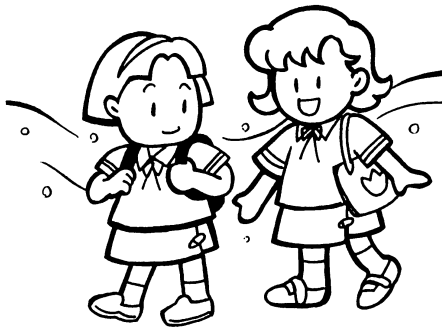


みんなの童話

みきちゃんのかさ



みきちゃんは、小学二年生です。きょうは日直で、かえりがおそくなりました。

お昼からふり始めた雨は、かえりにはほんぶりになっていました。げた箱の中には朝はいて来たところのかわりに長ぐつがおいてありました。そして中に、

『お昼のきゆうけいに、長ぐつとかさを持ってきました。母より』と、書いたメモが入っていました。

「お母さんお仕事してるのに持ってきてくれたんだ」

みきちゃんはメモをポケットに入ると、長ぐつをはきました。かさ立ての前に立って、とってピンクのリボンのついたかさをさがしました。リボンには『あいもとみき』と

ししゅうがしてあります。

「あれっ、かさがないよ」

かさ立てには、数本のこつていまして、ほねが折れていたり、やぶれていて、さしてかえれそうにありません。

「どうしてないんだろっ」

みきちゃんは、あちこちさがしました。かさ立ての下ものぞいて見ました。でもありません。

「しかたがない。走ってかえろう」

おもいきって、雨の中にとび出しました。

ずぶぬれで家にかえりました。かぎでげんかんを開けるとバスタオルとかがえがいてありました。

「お母さんだ」

みきちゃんはふくをさがえるとキツチンのテーブルに、

『お母さんありがとう。とってもうれしかったよ』

と、びんせんに書いておきました。

みきちゃんは二かいの子どもべやに行くとき、しゆくだいをやりはじめました。

「ただいま」

お母さんがかえって来ました。みきちゃんは気がつきません。お母さんはげんかんのろうかにびしよびしよのぶくを見つけてました。

「へんねえ。かささしてもこんなにぬれたのかしら？」

ぬれたぶくをせんたくきの中に入れて、キツチンに行きました。テーブルの上のメモを見つけてました。

「よかった、かささしてきたんだ」

でも、お母さんはげんかんにみきちゃんのかさがなかったような気がしました。

「かさがないわ」

げんかんに行ってお母さんはつぶやきました。

「みーき、みーき」

みきちゃんは、二かいから下りてきました。

（しまった。かさがないのばれちゃったかな？）

みきちゃんつぶやきました。

「かさはさしてこなかったの？」

お母さんがききました。

「かさ、なかったの」

「なかったってどういうこと？メモにはありがとって……」

「だからかさはなかったの。でもお母さんのきもちがうれしかったから書いたの」

と、みきちゃんはこたえました。

「ピーボン、ピーボン」

げんかんの外にだれか立っています。「はい」

お母さんがドアを開けました。

「まいちゃん！」

同じクラスのまいちゃんでした。

「ごめんなさい」

まいちゃんは、あたまを下げました。雨は、もう止んでいます。

「わたしの家してたの？」

まいちゃんは、一週間前にてんこうして来ました。お母さんがにゅういんしたためにおじさんの家にあずけられたからです。

「あいもとみきちゃんの家はどこですかって、さがして来たの」

と、まいちゃんはこたえました。

「そっだったの。でも、どうしてわたしのかさをもってるの？」

まいちゃんは、手にみきちゃんのかさをもっていました。

「ごめんね。かさ立ての前を通ったら、かわいいリボンのついたかさがうらやましかったの。みきちゃん、本当にごめんなさい」

まいちゃんは、今にもなきだしそうです。

「まいちゃん、もういいよ。てんこうして来たときから友だちになりたいたおもったの」

「ありがとう。お友だちになってね」と、まいちゃんはえがおになってこたえました。

みきちゃんのお母さんは、二人をやさしく見つめていました。

しるやま会員 木村 久世